

木曜日

9月25日

午後5時30分開始

情報科学研究科棟 2F大講義室

第30回情報科学談話会

話題：言語の普遍性と多様性を見る
ひとつの視座

— 位置変化構文をめぐって

話題提供者：小川 芳樹 准教授

（人間社会情報科学専攻・言語情報学分野）

「生成文法」と呼ばれる言語理論は、ヒトの脳に内在する言語の文法知識の体系と、それがどのようにして脳に備わったかを研究対象としています。本トークでは、言語学の中での生成文法の位置づけ、および、言語学の進展の中で生成文法が果たしてきた役割について概観するとともに、与格構文、二重目的語構文、使役移動構文、連動詞構文など、位置変化を表すいくつかの構文を取り上げ、言語の普遍性と多様性に対する分析の一端を話題として提供します。それを通して、言語学から情報科学の広いコンテクストに向かってどのような橋渡しができるか、また、情報科学の視点から見た言語学の将来像などについて、皆様のご意見を伺える機会になればと願っています。